Ⅲ・連携協力検討委員会

１．オープンカレッジを活用した連携協力の在り方について

連携協力検討委員会　部会長
山本　恒夫

連携協力検討委員会の役割は、エル・ネット「オープンカレッジ」の受講体制をより一層活性化させるために、大学・教育委員会・学習グループ・ボランティア間の連携を促進することにある。

そのために、平成16年度は下記のようなモデル事業を実施し、オープンカレッジを活用した連携協力の在り方についての調査研究を行った。

モデル事業としては、特定の大学と連携をとり公開講座を開催することとし、その方法としてエル・ネット「オープンカレッジ」を利用する。そのタイプとしては、これまでの調査研究により、

１）受講者企画参加型：受講者の代表（ボランティア）等が公開講座の企画に参加して実施する。

２）施設企画型：施設が中心となって、公開講座を企画する

３）大学企画型：大学が中心となって、公開講座を企画する

ⅰ）単　独　型：大学単独で実施

ⅱ）大学間連携型：複数の大学が連携して実施

などが考えられてきた。

平成16年度は、その上に立って、さらに以下のような課題に取り組むこととした。

１．大学と地方公共団体（県民カレッジ等）との連携協力の推進

２．コンテンツ（講義）のライブラリー化とボランティア等の人材育成

３．単なる講座視聴でなく、集合学習への組み入れ

［講座番組のライブラリー化とパッケージ化（講座の組み合わせ）に関する情報の提供］

［広報強化及び戦略］

［補助的な講師］

［中間リーダーの養成・活用］

その結果については次の「**２．モデル事業事例**」に示してあり、さらに「**３．地域の公開講座を開くために**」で連携についての幅広い検討を行った。

平成16年度のモデル事業の実施結果を検討する中で出てきたのは、今や地域の学習者の側から大学に対し公開講座についての要望を出す段階に来ているのではないか、という問題提起で、これは今後の課題とされた。このような問題提起がなされたのは、従来の講座がどうしても「大学企画型」に偏りがちで、それを集合学習へ組み入れようとすると、地域での学習に合わない内容も多く、活用しづらい、という事情が生じているためである。

２．モデル事業事例

（１）エル・ネット「オープンカレッジ」を活用したパッケージ化教材の開発

～学習の成果を生かす場としての学習講座モデル事業～

エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会
（北海道立生涯学習推進センター）

１．趣　旨

北海道においては、学習成果の活用や学習成果を生かした社会参加へのニーズが増大しており、学習成果をさまざまな形で生かしながら、創造性豊かな社会を実現することが重要な課題となっている。

一方、地域コミュニティが衰退する中で、青少年の健全育成、地域の医療・福祉、環境保全など、地域が直面する様々な課題は複雑化しており、行政だけで適切に対応することが年々困難な状況にある。

このような状況の中、地域の人々が「自らの地域は自らつくる」という公共の意識を持ち、社会の形成に主体的に参画しながら、互いに支え合い、協力し合うという互恵の精神に基づき、住民と行政との協働による地域づくりが求められている。

そのため、道民一人一人の多様な学習ニーズに応え、生涯学習活動を充実させるとともに、学習成果を生かし積極的に社会参加しようとする意欲の向上を図る必要がある。

このようなことから、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用し、道民の学習意欲を高めるとともに、これまでの受け身的な学習から、積極的に社会参加しようとする主体的な学習を支援する学習プログラムの開発に取り組むこととした。

２．事業の概要

（１）新規開発型事業について

「拠点施設設置型事業」におけるエル・ネット「オープンカレッジ」の録画テープを市町村の生涯学習講座やグループ学習で、学習者が身近な学習教材として活用してもらうとともに、学習成果を生かし、学習支援者として活動できるよう、モデル的な学習講座の教材として、録画したテープに補助資料・解説マニュアル・解説マニュアル活用事例を加えたパッケージ化教材の開発を行い、開発した教材による学習講座のモデル事業により、その有効性を検証する。

※パッケージ化教材とは、以下の４点をセットにした教材の名称として使用している。

①録画テープ　②参加者用補助資料　③講座主催者用解説マニュアル

④解説マニュアル活用事例テープ

＜学習講座モデル事業＞

期　　日	実施機関	講　　座　　名	参加者数
７月16日(金)	岩手大学	啄木の魅力、賢治の魅力 第３回目「啄木の短歌、賢治の短歌」	97人
９月28日(火)	群馬県立女子大学	萩原朔太郎と「郷愁」 第１回目「萩原朔太郎と蕪村」	83人
12月６日(月)	岩手大学	啄木の魅力、賢治の魅力 第１回目「啄木の風土、賢治の風土」	87人

＜学習プログラム内容＞

１回のエル・ネット「オープンカレッジ」録画テープは約90分あり、１度に活用するには多少時間が長いことから、本放送の内容を２回に分けて使用し、２回の講座としても活用できるよう学習プログラムを作成した。

◆　９月28日（火）の学習プログラム　◆

12:30	13:00	13:10	13:50	14:00	14:10	14:15	15:20	15:30
受付	開講式	解　説 (10分)	VTR視聴 (前　半)	解　説 (10分)	休　憩 (10分)	解　説 (５分)	VTR視聴 (後　半)	解説　質疑応答 (10分)　アンケート

＜補助資料の作成＞

録画テープとテキストによる学習を補足・発展させるため、テキストをよりどころとした補助資料を作成した。

補助資料の全体的な特徴としては、昨年のモデル事業でおこなったヒヤリング調査等の意見を参考に、より多くの方に資料を活用してもらえるよう、文字を大きくしたことやふりがなの表記等の工夫がある。

◆　補助資料の特徴　◆

1　読みやすい大きな文字
2　専門用語等へのふりがなの表記
3　カラー印刷による写真や色文字の表示
4　参考文献等の掲載

（補助資料表紙）

＜「解説マニュアル」の作成＞

参加者の学習への興味・関心や意欲を高めるためには、録画テープの講師の講義を補助するため、学習内容の解説を行う学習支援者をおくことが効果的である。

また、学習者の学習ニーズには、自らの学習を一層高めるため、学習したことを誰かに伝えたいという思いもある。

「解説マニュアル」は、学習者が学習支援者として解説を行う時のひとつのモデル的な流れとして作成した。

「啄木の短歌、賢治の短歌」解説の進め方
北海道立生涯学習推進センター

解説の時間	解　説　の　内　容
■前半放映前 １０分	◆　解説者の自己紹介と解説者と啄木や賢治との関わりについて話し、「共に学びましょう！」と学習への動機づけを行う。 ◆　『啄木の魅力、賢治の魅力』という４回シリーズの講座の３回目であることから、１回目、２回目の講座の概要（啄木に関わる部分）を補助資料を用いて説明する。 ◆　３回目「啄木の短歌、賢治の短歌」の前半は「啄木の短歌の４つの特徴」について、教授が解説しているので、テキストや補助資料を参　考に視聴しましょうと話す。
■前半放映後 １５分	◆　補助資料に基づき「啄木の短歌の４つの特徴」について確認し、補足説明する。 ◆　北海道と啄木との関わりについて補足説明する。
■後半放映前 １０分	◆　１回目、２回目の講座の概要（賢治に関わる部分）を補助資料を用いて説明する。啄木との関わりについてもエピソードを交えて解説する。 ◆　３回目「啄木の短歌、賢治の短歌」の後半は、「賢治の短歌の４つの特徴」について教授が解説しているので、テキストや補助資料を参考に視聴しましょうと話す。
■後半放映後 １５分	◆　補助資料に基づき「賢治の短歌の４つの特徴」について確認し、補足説明する。 ◆　特に、賢治の文学について補助資料により、説明する。 ◆　４回目の講座「啄木の魅力、賢治の魅力」の概要の紹介とビデオ視　聴による学習を勧める。 ◆　今回の学習を契機に短歌の作歌への誘いについて話す。 ◆　解説「清聴」のお礼を述べ、解説を終える。

（解説マニュアル）

◆　解説マニュアルの内容　◆

1　前半開始前・・・・全体の学習への動機づけ
2　前半終了時・・・・前半の講座の補足とまとめ
3　後半開始時・・・・後半の学習への動機づけ
4　後半終了時・・・・後半の講座のまとめと
　　発展的な学習への動機づけ

＜「解説マニュアル」活用事例テープの作成＞

パッケージ化教材を活用してもらうためには、パッケージ化教材を使った講座のイメージをつかむことが重要であると考え、実際に行われた学習講座のモデル事業の様子を録画し、学習支援者が解説している様子がわかるように編集した「解説マニュアル」活用事例テープを作成した。

講座を開催する主催者または学習支援者が講座のイメージをつかみ、各自で自分なりの学習支援のあり方について学ぶ時の補助的な役割を果たすことを目的としている。

（活用事例テープ）

＜参加者のアンケートによる検証状況＞

講座名・・・　『萩原朔太郎の世界』	
1　視聴番組	『萩原朔太郎と「郷愁」』第１回目
2　参加者数	83名
3　回答者数	70名
4　回収率	84%

（モデル事業の参加者）

今回の学習講座モデル事業においては、60才代がほぼ半数を占め、70才代を合わせると８割を超えた。平日の午後に講座を実施したことによるものと考えられる。

「補助資料」に対する意見としては、学習者向けの「補助資料」は、「あった方がよい」が９割を超え、内容については「大変参考になった」が８割を超えていた。

「解説マニュアル」に基づく解説に対する意見としては、解説の回数は、「ちょうどよい」が９割を超え、解説の内容は、「大変参考になった」がほぼ８割を占めた。

（学習支援者）

（２）拠点施設設置型事業

エル・ネット「オープンカレッジ」番組を録画し、テープの貸出しを行うとともに、岩手大学公開講座「啄木の魅力・賢治の魅力」の４回分のパッケージ化教材を作成し、市町村で実施する生涯学習講座や、住民が自主的に企画・運営する事業で活用できるよう、当推進センター附属視聴覚センターが随時貸出しを行っている。

＜貸出し実績（１月末現在）＞

年度	貸出本数	延べ利用者数
16年度	120本	650名

※　エル・ネット「オープンカレッジ」録画テープの貸出し実績

＜パッケージ化教材の広報＞

岩手大学公開講座「啄木の魅力・賢治の魅力」の４回分のパッケージ化教材が、市町村で実施する生涯学習講座や、住民が自主的に企画・運営する事業で活用できるよう広報チラシを作成して、道内各市町村教育委員会に送付し、住民や学習グループに教材の情報提供をした。

学習成果の活用・多様な学習ニーズに対応した

パッケージ化教材のご案内

エル・ネット「オープンカレッジ」　啄木の魅力・賢治の魅力

現在、社会教育行政には、住民の多様な学習ニーズに応えることと、学習成果の活用の場を提供することがあめられています。
道立生涯学習推進センターでは、これらの課題に応えるため、エル・ネット「オープンカレッジ」の番組を活用した新たな教材（３点セットのパッケージ化教材）を開発しました。
パッケージ化教材を活用して、次のことが可能です。

①本教材で学習した参加者が、本教材を使い、次は新たな学習支援者として活躍できます。
②市町村の生涯学習講座や自主的なグループによる学習会が無料でできます。
さらに、約２００本の「オープンカレッジ」録画テープで、住民の高度なる学習ニーズに対応できます。（今後、順次パッケージ化教材として開発予定です。）

パッケージ化教材名
岩手大学公開講座「啄木の魅力・賢治の魅力」
第１回目　「啄木の風土・賢治の風土」
第２回目　「啄木の恋・賢治の恋」
第３回目　「啄木の短歌・賢治の短歌」
第４回目　「啄木の魅力・賢治の魅力」

いつでも使えます！

どこでも使えます！

パッケージ化教材の内容
市町村や団体・グループに貸出すもの
①録画テープ（各回９０分程度）
②参加者の補助資料
学習を補足・発展させるために使う補助資料です。
③講座主催者の解説マニュアル
参加者の興味・関心や意欲を高めるために、
解説（学習支援）者が使う資料です。
④解説マニュアル活用事例テープ（２９分程度）
上記教材による解説マニュアルを活用した
モデル事業の録画テープです。

基本的なプログラム
①解説者が、解説マニュアルに沿って、学習者の関心を高めます。
②学習者は、補助資料を見ながらＶＴＲの前半を視聴します。
③解説者が解説マニュアルに沿って、前半のまとめと補足説明を行います。
④休憩
⑤学習者が、解説資料を見ながらＶＴＲ後半の視聴を始めます。
⑥解説者が、解説資料を見ながらＶＴＲ後半を視聴します。
⑦解説者が解説マニュアルに沿って、後半のまとめと補足説明を行います。

解説 (7.0)	VTR視聴 (前・半)	解説 (10.0)	休憩 (10.0)	解説 (5.0)	VTR視聴 (後・半)	解説 (10.0)

※　前半と後半を２回に分けて実施することも可能です。

どなたでも無料で利用することができます。
★　利用方法：月～金　９：００～１７：００　電話予約してください。
★　予約・問い合わせ
ＴＥＬ　０１１－２３１－４１１１（内線３６－３４５）
ＵＲＬ　http://nanaho.pref.hokkaido.jp/ecc/library/
北海道立生涯学習推進センター附属視聴覚センター（教材貸出室）

（広報チラシ）

３．事業の成果と課題

（１）成　果

３回の新規開発型事業の実施と実施後のアンケート調査の結果から、パッケージ化教材を用いた学習は、参加者の学習意欲を高めたり、内容の理解を深めたりする傾向が見られた。

また、参加者から次回は学習支援者として本事業に参加したいという旨の意見があり、パッケージ化教材を用いた学習により、参加者の学習の様子が受動的なものから、主体的に学習に参画する能動的なものに変化しつつある様子が伺える。

一方、拠点施設設置型事業においては、視聴覚センターの試写室を活用したエル・ネット「オープンカレッジ」番組の生放送の視聴や録画テープの視聴、更には、全道から録画テープへの予約が、新規開発型事業との相乗効果により順調な伸びを示すなど、エル・ネット「オープンカレッジ」の普及・啓発事業として効果を上げている。

（２）課　題

新規開発型事業として取り組んだ学習講座モデル事業では、パッケージ化教材を使用することにより、参加者の学習意欲を高めるとともに、学習成果の活用という学習ニーズへの対応も可能であると考えられる。特に、学習成果の活用への対応では、パッケージ化教材を使用することにより、地域の住民が学習支援者として手軽に学習会を開催できるというメリットがある。

しかし、これまでのモデル事業では、学習支援者をモデル事業実行委員会のメンバーである社会教育主事がおこなっており、一般住民がおこなった時のパッケージ化教材の有効性が検証されていない。

また、拠点施設設置型事業の課題としては、エル・ネット「オープンカレッジ」の番組を録画し貸し出すだけでは、学習内容が高度であるため、幅広い住民の方々に活用してもらい、広く普及させることが困難なことなどがあげられる。

４．今後の展望

次年度の新規開発型事業は、一般住民が学習支援者として、パッケージ化教材で解説をおこなった場合の効果を検証するため、モデル事業の学習支援者を参加者から募集して取り組むことが必要であると考える。

また、市町村の生涯学習講座や自主学習グループの学習会でパッケージ化教材

（モデル事業実施委員会の様子）

を使った学習講座モデル事業を行い、事前・事後のアンケート調査などにより、パッケージ化教材の効果を検証するとともに、今後は、学習支援者を養成する学習プログラムの開発も必要になってくると考える。

拠点施設設置型事業では、幅広い住民層にエル・ネット「オープンカレッジ」番組を活用してもらうため、録画テープの使用条件や録画時間との関係を考慮しながら、録画テープを使った学習会などで、参加者同士の自主交流や意見交換などを可能にする学習プログラムを開発し、録画テープと共に貸し出すなどの工夫が必要であると考える。